

2025年度

川崎市視覚障害者情報文化センター
指定管理事業報告書

社会福祉法人 日本点字図書館

目次

ページ番号

1 総括	1
2 利用実績	3
(1) 図書情報提供サービス	3
(2) 資料製作	4
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成.....	5
(4) 相談・訓練事業の取り組み	5
(5) 用具の展示と販売紹介	6
(6) 啓発・普及	6
(7) イベントの開催	7
(8) その他	7
3 総合的な運営状況	8
(1) 利用者への支援	8
(2) 事業の成果	24

1 総括

社会福祉法人日本点字図書館は、川崎市視覚障害者情報文化センター条例等に基づき、2025年4月1日から2026年3月31日まで、指定管理者として川崎市視覚障害者情報文化センター（以下、センター）の管理運営を行いました。当センターは、「視覚障害者市民にいつも頼られるセンター」を基本方針としています。図書の製作・貸出、自立支援訓練、用具の斡旋といった基幹事業に加え、音声解説付きDVD映画の体験上映会、ヨガ教室、音楽コンサート等のイベントを実施し、利用者の生活の質の向上と文化に触れる機会の提供に取り組んでいます。これらの取組を通じ、視覚障害者が心豊かな日常生活を送るための支援を行っています。

図書サービス事業については、利用者層の高齢化やスマートフォンの普及により、点字・録音図書の物理的な貸出数は減少傾向にあります。しかしその一方で、デジジー図書のダウンロード提供数は4,269タイトル（前年度比112%）と伸びており、利用ニーズがデジタル配信へ移行するという「構造的な変化」に対応しております。読書バリアフリー法および改正障害者差別解消法の推進に向けた取組としては、小学館と連携した「オーディオブック・サロン」（149名参加）を開催しました。出版社と情報提供施設が直接連携するこの試みは、全国的にも事例が少なく、多方面から高い注目を集めています。また、川崎市立宮前図書館での読書会や公共図書館向け事業説明会を通じ、地域全体で読書を支える連携体制を作るべく対応しました。技術革新への対応では、サピエ図書館の接続環境の変化に際し、従来機器のサピエ図書館利用ができなくなることを受け、センスプレーヤー体験会を迅速に実施し、利用者の継続的な情報アクセスを支援しました。今後の持続可能な運営に向けては、生成AI（ChatGPT等）の導入による製作の効率化を推進しています。さらに、DVD映画音声解説の製作においては、積極的な養成活動の結果、20代から50代の現役世代を含む20名の新規ボランティアを確保できました。これにより、将来にわたり質の高い資料を提供し続けるための製作基盤を再構築しています。

相談・訓練事業については、来所・訪問・オンラインなど6つの手法を駆使し、相談から実施まで待機のない迅速な支援を徹底しました。特にニーズが増しているICT（スマートフォン）分野では、視覚障害当事者である職員が直接指導に当たることで、利用者の生活に即したより実践的な自立支援を展開しています。訓練回数は全体として減少傾向にありますが、これは長期的な契約よりも「特定の目的地まで安全に行けるようになりたい」といった、より具体的かつ短期的なニーズへの変化に柔軟に対応し、効率的な支援を行った結果と考えています。用具の斡旋についても、取り扱い点数こそ前年度を下回りましたが、訓練スタッフと連携した丁寧な選定支援により、139件に及ぶ専門的な用具相談に対応し、利用者のQOL（生活の質）向上に寄与しました。地域連携および広報活動・イベントの開催としては、市内眼科医療機関との定例会「ビジョンサポート川崎」の継続により、医療機関から福祉支援に繋げる体制を強化しました。また、映画祭やミュージアム等の運営を対象とした視覚障害についての理解を深める研修の講師依頼が大幅に増加したことは、当センターが市の専門的リソースとして広く認知された証であると考えます。さら

に、「働く人たちの座談会」や「iPhone 訓練フォローアップ交流会」など、利用者のニーズやライフステージに応じた新たな交流の場は、訓練修了後の継続的な自立支援として極めて有効に機能しました。今後も、利用者アンケートに基づく PDCA サイクルを回し、眼科医療・福祉が一体となった支援の質をさらに高めてまいります。

防災・減災への取組については、利用者の安全確保を最優先とし、日頃の訓練に加え、不測の事態における組織的な危機管理体制の強化に努めました。特に 12 月に発生した全館停電に際しては、ホームページやメールマガジンでの即時告知に加え、視覚障害者福祉協会やボランティア団体、同行援護事業所等への迅速な情報共有、さらには個別の電話連絡を組み合わせた周知を実施しました。この結果、中止になったセンターまつり当日の来館混乱を未然に防ぎ、大きな混乱なく運営を継続することができました。また、この停電期間中には、職員の約 3 分の 2 が本部（日本点字図書館）へ拠点を移し、センター内でもポータブル電源を活用することで、「情報提供と個別対応を止めない」という方針のもと業務を継続しました。日常的な防災訓練においても、視覚障害者の特性に配慮した工夫を取り入れています。利用者向けの上映会後には、実際に簡易トイレや寝袋に触れる体験や、避難経路である外階段を歩く訓練を 2 回実施しました。これにより、「当事者が発災時の行動を具体的にイメージできる」実践的な啓発を実現しています。このほか、AED の毎日の点検や、職員連絡網の定期的なテスト送信、感染症対策の徹底など、ハード・ソフト両面での安全管理を継続しています。今後も、今般の停電対応で得られた知見を活かし、行政や地域との連携をさらに深め、体制整備を推進してまいります。

2 利用実績

(1) 図書情報提供サービス

	2025 年度	2024 年度
① 利用登録者数	506 名	519 名
(新規登録者数)	23 名	36 名
(点字使用者数)	112 名	119 名
② 利用登録団体	311 施設	309 施設
(新規団体登録数)	2 団体	3 団体
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	3,995 タイトル	3,882 タイトル
(冊数)	13,860 冊	13,506 冊
蔵書数の変化 (新収書)	135 タイトル	153 タイトル
	440 冊	503 冊
貸出数	210 タイトル	386 タイトル
	762 冊	1,187 冊
(内 他館借受)	64 タイトル	96 タイトル
	279 冊	364 冊
(雑誌)	127 タイトル	133 タイトル
点字図書コンテンツのダウンロード提供		
メモリーメディア	1 タイトル	29 タイトル
④ 音訳図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	7,308 タイトル	7,065 タイトル
(枚数)	9,804 枚	9,367 枚
蔵書数の変化 (新収書)	244 タイトル	247 タイトル
	360 枚	399 枚
貸出数		
(ア) カセットテープ	22 タイトル	23 タイトル
	158 巻	113 巻
(イ) CD図書	6,623 タイトル	6,907 タイトル
(内 他館借受)	3,047 タイトル	2,892 タイトル
(内 シネマ・デイジー)	290 タイトル	635 タイトル
(ウ) CD雑誌	2,813 タイトル	3,166 タイトル
デイジー図書コンテンツダウンロード提供		
メモリーメディア	4,269 タイトル	3,805 タイトル

(内 デイジーオンラインサービス)	323 タイトル	328 タイトル
⑤ 対面朗読	17 名	9 名
⑥ レファレンスサービス情報提供件数	207 件	358 件
(2) 資料製作		
① 点字図書の製作数		
(ア) 製作数	45 タイトル 179 冊	40 タイトル 159 冊
内訳		
委託製作数	18 タイトル 69 冊	17 タイトル 72 冊
委託外製作数	27 タイトル 110 冊	23 タイトル 87 冊
(イ) 寄贈	24 タイトル 64 冊	34 タイトル 109 冊
(ウ) プライベートサービス	11 タイトル	18 タイトル
② 音訳図書の製作数		
(ア) 製作数	78 タイトル	54 タイトル
内訳		
委託製作数	53 タイトル	34 タイトル
委託外製作数	13 タイトル	19 タイトル
録音雑誌	12 タイトル	12 タイトル
(イ) デイジー編集	78 タイトル	54 タイトル
(ウ) 寄贈	104 タイトル	77 タイトル
(エ) プライベートサービス	24 タイトル	17 タイトル
内訳		
録音	19 タイトル	10 タイトル
テキストデイジー (合成音声デイジー含)	4 タイトル	2 タイトル
プレーンテキスト	1 タイトル	0 タイトル
PDF	0 タイトル	0 タイトル
テープのデイジー化	0 タイトル	1 タイトル
テープのダビング	0 タイトル	4 タイトル
③ テキストデイジー図書の製作数	1 タイトル	2 タイトル

④ シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数			
製作数	6タイトル		7タイトル
内訳			
センター内製作数	6タイトル		3タイトル
委託製作数	—		4タイトル

(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成

① 点訳ボランティア養成講座			
開催回数	—		17回
実受講者数	—		5名
② 点訳ボランティアスキルアップ研修会			
開催回数	4回		—
延べ受講者数	27名		—
③ 音訳ボランティア養成講座			
開催回数	—		—
実受講者数	—		—
④ 音訳ボランティアスキルアップ研修会			
開催回数	2回		3回
延べ受講者数	36名		17名
⑤ 音声ガイド勉強会			
開催回数	3回		—
延べ受講者数	22名		—

(4) 相談・訓練事業の取り組み

① 相談	相談者数	413名	720回	414名	726回
	歩行	74名	118回	67名	113回
	パソコン	32名	78回	29名	59回
	ICT	52名	117回	42名	143回
	点字	5名	13回	11名	56回
	生活	128名	225回	111名	201回
	補助具	93名	139回	150名	150回
	フォローアップ交流会	29名	30回	(※2025年度新設)	
	その他	0名	0回	4名	4回
② 訓練	訓練者数	21名	117回	24名	227回
	(新規訓練者数)	11名		6名	

内訳(複数提供あり)

歩行訓練	7名	40回	9名	105回
パソコン訓練	1名	10回	1名	16回
ICT訓練	8名	50回	4名	34回
点字訓練	3名	15回	3名	61回
日常生活訓練	1名	1回	1名	3回
その他	1名	1回	6名	8回

③ 訓練生交流会の開催

(ア) 屋外交流会 (10月) (浜離宮恩賜庭園、豊洲市場) 訓練生8名、付き添い8名

(イ) 「働く人たちの座談会」

10月11日

参加者来所10名・オンライン8名

(ウ) 「点字訓練アフターフォローの会」

7月12日

参加者3名

(エ) 「iPhone訓練アフターフォローの会」

11月19日

参加者7名

(5) 用具の展示と販売紹介

	2025年度	2024年度
① 展示点数	437点	420点
② 販売紹介点数	1,234点	1,564点

(6) 啓発・普及

① 医療と福祉の連携研修の開催

8月23日

オンライン参加26名

② 授業・講座への講師派遣

(ア) 当事者職員による「視覚障害者の生活について」学校授業

6月24日	南百合丘小学校	4年生16名
9月24日	向小学校	4年生18名
10月1日	塚越中学校	2年生約200名
10月7日	幸町小学校	4年生98名
11月25日	浅田小学校	4年生21名
12月10日	宮前小学校(川崎区)	4年生約140名
2月3日	今井小学校	4年生約90名

(イ) 同行援護従業者研修講師

総合研修センターにおいて実施された同行援護従業者(一般過程)研修

「同行援護の基礎知識」講師派遣

6月27日・9月30日・11月29日

延べ参加者30名

(ウ) 川崎市中原区社会福祉協議会主催夏休みボランティア体験

「チャレボラ 2025」への講師派遣

7月23日 中学2年生から高校3年生7名

(エ) 東京医薬看護専門学校(江戸川区)「視覚障害リハビリテーション」講師

10月21日・11月11日 2年生16名

③ 地域への普及活動

(ア) 「認知症のひととみんなのつながるカフェ」(高津区)への講師派遣

7月2日 喫茶たのしい家 27名

2月17日 みんなでつくる末永カフェ 27名

(イ) 「KAWASAKI しんゆり映画祭の誘導ボランティアスタッフ養成研修」への講師派遣

8月2日 21名

(ウ) 第9回手をつなぐフィスティバル

11月29日 23名

(エ) 「舞台をみんなで楽しむためのご案内講座」への講師派遣

12月26日 9名

(オ) 「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」への講師派遣

1月29日 27名

(7) イベントの開催

- | | | |
|-------------------------|---------|------------|
| ① 音声ガイド付きDVD映画体験上映会 | 開催数 12回 | 延べ参加者 416名 |
| ② ヨガ教室 | 開催数 12回 | 延べ参加者 104名 |
| ③ CDで聴くクラシック音楽講座 | 開催数 5回 | 延べ参加者 141名 |
| ④ 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」 | 開催数 5回 | 延べ参加者 87名 |
| ⑤ 小説の中の音を楽しむ会 | 開催数 2回 | 延べ参加者 44名 |
| ⑥ 出張イベント「小説の中の音を楽しむ会」 | 開催数 2回 | 延べ参加者 38名 |
| ⑦ 春のコンサート(5月) | | 参加者 112名 |
| ⑧ 声の図書聴き比べイベント | | |
| オーディオブック・サロン(5月) | | 参加者 149名 |
| ⑨ 出張イベント「ファンケルセミナー」(9月) | | 参加者 8名 |
| ⑩ 音声ガイド制作ワークショップ(12月) | | 参加者 8名 |
| ⑪ ほっこりサロンアイ eye(2月) | | 参加者 4名 |
| ⑫ 音戦宅球(2月) | | 参加者 10名 |
| ⑬ 漫才公演「宮田陽・昇 独演会」(2月) | | 参加者 81名 |

※センターまつり(12月)は電気設備故障による全館停電のため、中止

(8) その他

- ① センスプレーヤー体験会 開催数 3回 延べ参加者 9名

3 総合的な運営状況

(1) 利用者への支援

① 点字図書館事業

(ア) 利用者数と図書の貸出・提供

今年度の新規利用登録者数は23名となりましたが、利用者の高齢化によるご逝去や転出に伴う登録削除の影響を受け、最終的な登録者数は前年度の519名から減少して506名となりました。利用登録団体数は311施設と微増したものの、個人利用者の減少が全体の利用動向に影響を与えています。

図書の利用件数については、点字図書が210タイトル、CD図書が6,623タイトルといずれも減少しました。特に点字利用者は音訳利用者と比べても高齢化が顕著に進んでおり、これまでの利用を支えていたヘビーユーザーの減少が、貸出数やレファレンス件数の減少に如実に反映されています。

一方で、デジ図書のダウンロード提供は4,269タイトル（前年度3,805タイトル）へと増加し、オンラインサービス利用は323タイトルと一定の利用がありました。新たに登録された50代から60代の利用者は、スマートフォン等を活用して能動的に情報を取得する傾向にあるため、従来の物理的なメディア提供からデジタル配信への構造的な変化が進んでいると考えられます。

今後は、新規利用者の開拓とともに、ダウンロードサービスの活用促進やスタッフによるきめ細かな情報提供を継続し、多様化する利用ニーズに柔軟に対応してまいります。

(イ) 点字図書・音訳図書・DVD映画音声解説の製作

a. 点字図書

点訳に関する個別相談は、電話やZoomに加え対面相談会を年3回開催しました。Zoomを活用した読み合わせ校正も継続し、効率的な製作体制を維持しています。また、自動点訳や校正データをファイル内に埋め込む「BESX」を用いた校正方式の活用を進め、出版社提供のテキストデータも活用することで、製作期間の短縮と精度向上を図りました。一方で、年度末に校正者1名が勇退したことから、次年度に向けた体制の立て直しが課題となっています。今後もボランティアと連携し、持続可能な製作環境の整備に努めてまいります。

b. 音訳図書

音訳事業では、目標に近い78タイトルの図書を完成させました。2025年度は本来、音訳者養成講座の開催年でしたが、長年講師を務めた2名の退任を受け、持続可能な体制再構築のため開催を1年見送りました。その間、職員とボランティアが連携し、新任講師の選出やカリキュラムの全面見直しを進めました。これらの準備を踏まえ、2026年度には試

験的に養成講座を実施し、課題を検証した上で、次年度以降の安定的で質の高いボランティア養成につなげてまいります。

c. DVD 映画音声解説

今年度の DVD 映画音声解説の製作は、目標 10 タイトルに対し 6 タイトルの完成にとどまりました。最終校正に係る職員作業が年度内に完了しなかったことが主な要因です。一方で、「書き手」「ナレーター」「編集者」と段階的に進めてきたボランティア養成により、次世代の担い手は着実に確保されています。ただし、提供水準に達するまでには時間を要し、現状では職員による最終校正が不可欠です。この課題に対応するため、今年度はスキルアップ勉強会を実施しました。今後も育成機会を継続し、安定的に高品質な作品提供ができる体制づくりを進めてまいります。

(ウ) 点字図書・音訳図書・DVD 映画音声解説製作ボランティアの養成

a. 点訳ボランティア

ボランティアの技術向上と情報共有を目的として、今年度も多角的な研修や会議を実施しました。11 月から全 4 回の「英語点訳入門講習会」を開催し、8 名が受講しました。統一英語点字 (UEB) の習得に重点を置き、受講者は修了後の卒業製作にも意欲的に取り組んでいます。また、「点訳校正者会議」を 4 月 23 日と 10 月 9 日に開催し、来所と Zoom を併用した形式で延べ 38 名が参加、具体的な点訳・校正方針や「点訳通信第 7 号」の内容について協議しました。さらに「点訳関係者連絡会」を 2 回開催し、6 月は点字使用児童への支援方法の共有、11 月は「点訳通信第 7 号」の周知と交流を行い延べ 52 名が参加しました。これらの取り組みを通じ、ICT も活用しながら質の高い点字図書製作体制の維持に努めています。

b. 音訳ボランティア

音訳者関係連絡会の枠組みを活用し、音訳技術の向上に加え、視覚障害者への理解を深めるスキルアップ研修を 2 回実施し、延べ 36 名が参加しました。読みの技術だけでなく、当事者の特性や社会的配慮に関する知識が不可欠との考えから、市内文化施設のアクセシビリティを学ぶ機会として岡本太郎美術館 (川崎市多摩区) を訪問しました。当日は学芸員による配慮の解説を受けた後、触図付き解説書を用い、作品に触れながら鑑賞を体験しました。触察による理解を想像することで、情報提供のあり方を見直す貴重な機会となりました。今後も多角的な学びの場を継続し、ボランティアの専門性向上と支援体制の充実に努めてまいります。

c. DVD 映画音声解説ボランティア

DVD 映画音声解説の製作においては、ICT 活用と次世代ボランティアの育成の両面で成果を上げました。生成 AI については、前年度に引き続き ChatGPT や Gemini を活用し、職員・ボランティア双方の作業負担軽減と業務効率化に向けた検証を進めています。また、製作体制の見直しとして、これまで職員が担ってきた音声とナレーションの同期編集作業をボランティアへ段階的に移行し、新たに 5 名を受け入れました。今後は音声デイジー編集の習得も視野に入れ、計画的な育成を進めていきます。さらに、2025 年度は書き手やナレーターも含め新たに 20 名のボランティアが加わり、20 代から 50 代の現役世代が中心となる体制が整いました。ボランティアの高齢化が課題とされる中、若い世代の参画は当センターの強みであり、今後もボランティア養成を通じて持続的で質の高い情報提供体制の構築に努めてまいります。

② 相談・訓練事業の取り組み

(ア) 相談・訓練実績

今年度の相談・訓練事業においては、訪問、来所、オンライン、電話、メール、アウトリーチの 6 つの手法を活用し、利用者の皆様のご希望や状況に応じた柔軟な支援を展開しました。いずれの対応においても、相談から実施まで日数を空けないよう迅速な対応を徹底しています。

事業全体としては、ICT（スマートフォン）活用に関するニーズが年々増加し、その内容も多様化しています。これに対しては、視覚障害当事者である職員が専門的かつ実践的な視点から指導にあたっています。また、日常的な不明点についても、電話や来所により気軽に相談できる体制を維持し、継続的な支援につなげています。さらに、盲ろう者支援においては、通訳・介助員が同席しながら、個々の障害状況に応じた訓練を実施しました。加えて、外部講師を招いた研修を行うなど、職員の専門性向上と支援の質的強化にも取り組んでいます。

訓練回数は全体として減少傾向にありますが、その背景には高齢化や障害の進行、制度や社会状況に伴うニーズの変化があると分析しています。今後も利用者の生老病死に寄り添いながら、事業の外部発信と理解促進に努め、地域における支援の充実を図ってまいります。

(イ) 訓練生屋外交交流会の開催

訓練生同士の交流を目的とした屋外交交流会を開催し、11回目を迎えました。10月2日、訓練生・付き添い・職員の計23名で浜離宮恩賜庭園を訪問し、ガイドの解説を受けながら石垣やカリンの実に触れ、自然や歴史を体感しました。その後、豊洲市場で昼食をとり、訓練や日常について語り合い親睦を深めました。参加者からは体験への驚きや次回参加を望む声が寄せられ、有意義な機会となりました。



(ウ) 「働く人たちの座談会」の開催

10月11日に開催した「働く人たちの会」には、就労中・休業中・求職中の利用者18名（来場10名、Zoom8名）が参加しました。利用者2名が退職や転職などの体験を発表し、職員との対談を通じて就労や生活への向き合い方を共有しました。多くの質問が寄せられ、有意義な学びの機会となりました。また、歩行支援機器「あしらせ2」の体験会も実施し、最新技術に触れる機会となりました。

(エ) 「点字訓練フォローアップ交流会」「iPhone 訓練フォローアップ交流会」の開催

点字およびiPhone訓練修了者を対象に、技術の定着と交流を目的としたフォローアップ交流会を開催しました。7月12日の点字交流会には3名が参加し、クイズや点字トランプ、筆記確認を通じて技術向上と情報交換を行いました。11月19日のiPhone交流会には7名が参加し、有用なアプリの導入や操作演習を実施しました。いずれも日常生活の工夫を共有する貴重な場となり、訓練後の利用状況を把握することで、継続的な自立支援につながる機会となりました。

③ 視覚障害者用具の展示と斡旋

今年度の用具斡旋実績は1,234点（前年度1,564点）となりました。用具展示ルームでは、日常生活用具のIHクッキングヒーターや音声置時計、読み上げ機能付き拡大読書器に加え、利便性の高い台所用品や日用品などの新商品を積極的に取り入れ、利用者の選択肢を広げるよう努めてきました。

具体的な対応として、2口IHクッキングヒーターの購入検討時には、実際に商品をテーブルへ移動させてサイズ感や操作性を体感していただくなど、ご自宅の環境に即した丁寧な選定支援を行っています。また、持ち運び可能な拡大読書器を見本に加え、来所が困難な方への訪問相談にも活用できる体制を整えました。このほか、小型・軽量で杖の持ち手にも付けられるライトや電子レンジ用調理器具など、日常の不便を解消する小物類も幅広く取り揃えています。

用具の斡旋は利用者のQOL向上に直結する重要な事業です。今後も視覚障害リハビリテーションの専門家である訓練スタッフと密に連携し、個々の課題を解決するための有効なツールとして適切な用具を提供できるよう、サービスの充実に励んでまいります。

(ア) 用具展示会

6月20日の神奈川県立平塚盲学校在籍生向け、および11月30日に開催された「ブラインドワールド！2025」にて用具展示を行いました。会場では白杖や調理用具などを紹介し、初めて用具に触れる参加者の姿も見られるなど、周知を図る有意義な機会となりました。

④ 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及

(ア) 医療と福祉の連携研修の開催

見えづらさによる不便を抱えながら家の中に閉じこもってしまう方々を支援に繋げるため、医療機関や福祉事務所、地域の支援センターとの連携を強化しています。センターの事業を深く理解し適切な紹介をいただけるよう、眼科医療従事者や県内の関係団体との定期的な情報交換を継続するとともに、連携の輪を広げるための研修等を通じて、地域全体で支える体制の構築に努めています。

a. 眼科病院医療者との定例会「ビジョンサポート川崎」の開催

川崎市内の眼科医療関係者との情報交換の場「ビジョンサポート川崎」は、毎月1回のオンライン開催を継続し、開始から6年を迎えました。本会でのスマートフォン訓練の発表を受け、参加した看護師が入院患者に操作方法や情報提供を行い、好評を得た事例が報告され

ました。視覚障害者が自力で情報を「0 から 1」にする困難さを踏まえ、医療現場から支援を始める重要性について、関係者間で認識を共有しました。

b. 医療と福祉の連携のオンライン研修 「一般眼科でできるロービジョンケアって？見えにくい方への対応のコツ」 (8月23日)

眼科医療における初期ロービジョンケアと視覚リハビリテーションの連携体制構築を目的に研修会を開催しました。視能訓練士の三輪まり枝氏による講義に加え、センター職員が福祉現場での支援の実際を発表し、近隣の眼科医療関係者 26 名が参加しました。アンケートでは実践的な内容や福祉支援への理解が深まったとの声が多く、医療と福祉の円滑な連携に向けた有意義な機会となりました。

(イ) 授業・講座への講師派遣

市内の小・中学校における福祉授業へ、当センターの視覚障害当事者職員を講師として派遣しました。あわせて、近隣の総合研修センター「ふくふく」で実施される同行援護従業者養成研修にも講師を派遣し、ガイドヘルパーの養成に協力しております。今年度は特に、視覚障害者が市内の映画祭や舞台を楽しむため、視覚障害について理解を深める研修への講師依頼が増加したのが特徴であり、地域における文化享受の環境整備にも大きく寄与しました。

a. 出張福祉授業

開催日： 6月24日（南百合丘小学校4年生16名）
9月24日（向小学校4年生18名）
10月1日（塚越中学校2年生約200名）
10月7日（幸町小学校4年生98名）
11月25日（浅田小学校4年生21名）
12月10日（宮前小学校4年生約140名）
2月3日（今井小学校4年生約90名）

視覚障害当事者職員が、視覚障害者の生活について、クイズや ICT 機器の実演、便利グッズ、音声時計の紹介を交えた講演を実施しました。質疑応答も活発で生活に関連した疑問が多く寄せられ、子どもたちが視覚障害に伴う困難を自ら考える、有意義な理解啓発の機会となりました。

b. 同行援護従業者（一般過程）研修「同行援護の基礎知識」講師派遣

開催日：6月27日・9月30日・11月29日（延べ参加者30名）

場所：総合研修センター（ふくふく 2 階）

同行援護従業者養成研修「同行援護の基礎知識」へ講師を派遣しました。午前センターの見学を通じ、視覚障害者の生活用具や図書の貸出について実物を用いながら説明し、午後は用具の具体的な活用事例や給付制度についての解説を行いました。講義では ICT の活用や当事者としての体験、生活の工夫なども交え、視覚障害者の実生活への理解を促す内容となりました。

c. 中原区社会福祉協議会主催夏休みボランティア体験「チャレボラ 2025」への講師派遣

開催日：7 月 23 日

場所：福祉パルなかはら

参加者数：7 名

中学 2 年生から高校 3 年生が参加しました。オンライン募集の影響もあり、障害支援に関心の高い生徒が集まり、前半はシミュレーションゴーグルで視覚障害の不自由さを体感し、後半は買い物の場面での誘導実習を通じて、当事者と対話しながら安全な介助方法を学ぶ機会となりました。

d. 東京医薬看護専門学校視能訓練士科の講義

東京医薬看護専門学校視能訓練士科での講義を今年度も実施し、2 年生 16 名を対象に 2 日間にわたり行いました。内容はデジタルロービジョンケアや当事者の心理、視覚リハビリテーションの実際と連携について、職員 2 名が担当しました。iPhone アプリの紹介や弱視体験ゴーグルによる白杖体験など実践的なプログラムを取り入れ、学生が視覚障害への理解と関心を深める有意義な学びの機会となりました。

(ウ) 地域への普及活動

a. 「認知症のひととみんなのつながるカフェ」（高津区）への講師派遣

開催日： 7 月 2 日（喫茶たのしい家）

2 月 17 日（みんなでつくる末永カフェ）

参加者数：各 27 名

自分や家族の目が悪くなった際に慌てず対応するためのお話をしました。地域のご高齢の方や支援者に対し、視覚障害者の見え方の多様性や具体的な誘導サポートの方法についてお伝えし、理解を深めていただく貴重な機会となりました。

b. 「KAWASAKI しんゆり映画祭の誘導ボランティアスタッフ養成研修」への講師派遣

開催日：8 月 2 日

場所：新百合 21 ビル内会議室

参加者数：21 名

視覚障害者の誘導に関する基本動作を学び、新百合ヶ丘駅の改札から会場までの誘導実習を行いました。研修では、安全な誘導を前提としつつ、映画の楽しさを共有できるスタッフになっていただきたいというメッセージを伝え、ボランティアとしての意識向上を図りました。

c. 第 9 回手をつなぐフェスティバルへ参加

開催日：11 月 29 日

場所：とどろきアリーナ

参加者数：23 名

未就学児から高齢者、視覚以外の障害のある方まで幅広い来場がありました。当日は「点字クイズ」「当事者への質問コーナー」「用具体験」の 3 テーマで実施し、参加者はクイズに熱心に取り組み、質問をきっかけに当事者職員との交流も深まりました。各自のペースで用具に触れながら体験でき、楽しみつつ視覚障害への理解を深める貴重な機会となりました。

d. 「舞台をみんなで楽しむためのご案内講座」への講師派遣

開催日：12 月 26 日

場所：ラゾーナ川崎プラザソル

参加者数：9 名

視覚障害者をお迎えする際の誘導方法や配慮すべきポイントについて説明しました。あわせて、劇場の受付から座席までの誘導やトイレ利用に関する実技演習を行い、現場での実践的な対応について理解を深める機会となりました。

e. 「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」への講師派遣

開催日：1 月 29 日

場所：川崎市青少年科学館

参加者数：27 名

市内の文化施設職員や行政担当者を対象とした、視覚障害者への合理的配慮や当事者視点の取り入れ方に関するワークショップに参加しました。当センター職員は、施設で当事者をお迎えする際の参考となる事例紹介や助言を行い、文化施設におけるアクセシビリティ向上のための支援に努めました。

(エ) その他

a. 東住吉小学校の全盲の児童への支援

東住吉小学校に通う点字使用の1年生児童に対し、点字図書20タイトル20巻の貸し出しを実施しました。これにより、児童が校内で自由に点字図書を読める環境を実現しました。

b. N1 VICTORY プロレス観戦

開催日：8月11日

場所：カルッツかわさき

参加者数：31名

今回で6回目を数える本活動は、川崎市出身のプロレスラー・大原はじめ氏と地域スポンサー企業が地域活動の一環として招待してくださるもので、FM放送の実況解説を聴きながら耳で楽しむ形式で実施しました。センターでは利用者の募集や当日のサポートを行い、参加者は選手同士のぶつかり合う音や技の応酬、勝利の際の大歓声など、ライブならではの迫力を存分に堪能しました。

⑤ 広報活動・イベントの開催

(ア) 広報活動

a. 公共図書館向け事業説明会

センターでは、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律の理念を踏まえ、公共図書館との連携を進めており、10月に川崎市内公共図書館の障害者サービス担当職員8名を受け入れ、事業紹介や拡大読書器などの支援機器体験、意見交換を実施いたしました。実務に根差した対話を通じて担当者間の交流を深めたことで、読書環境整備に向けた相互理解を促進する貴重な機会となりました。今後の協働に向けた具体的な一歩となる、極めて有意義な取組となりました。

b. メディアによる広報

・新刊図書情報誌「ぶっくがいど」（偶数月、年6回発行）

2か月に一度発行している新刊図書情報誌「ぶっくがいど」では、新刊の点字・音訳図書やシネマ・デージー、人気図書の紹介に加え、音声解説付きDVD映画体験上映会や音楽コンサート、読書会等のイベント情報、新商品情報などを幅広く掲載しています。2025年6月号からは、ネット閲覧室お届けサービスを利用していない方への情報提供を目的とした新コーナー「ネット閲覧室お届けサービスリターンズ」を設置し、サービスの周知に努

めています。あわせて、点訳・音訳ボランティアに対しても活動支援として墨字版の無料送付を行い、関係者間の情報共有を図っています。

＊2026年3月末時点、2026年4月号発行数（1号分発行数目安）

点字版 79部、音声デジCD版 195枚、墨字版 282部

- ・メールマガジン「アイ eye」（月2回、10日・25日に発行）

パソコンやスマートフォン等へ配信するメール形式の広報誌であるメールマガジンでは、タイムリーな情報やイベント、地域情報、職員コラム、図書・用具の紹介などを幅広く発信しています。読者からは職員を身近に感じられる点や情報の有用性について好評をいただいております。今後も皆様の期待に応える有益な情報提供を継続していきます。

＊2026年3月末、登録者数 433名

- ・音声版メールマガジン「音声版アイ eye」（奇数月、年6回発行）

メールマガジンの購読はパソコンやスマートフォン等の利用者に限定されるため、より多くの方に活用いただくことを目的に音声版を発行しています。本サービスでは、2か月分にあたる計4号の内容をまとめ、合成音声で読み上げた音声資料として貸し出しを行っています。

＊2026年3月末、貸出者 12名（1号分の貸出者実数）

- ・ホームページ <http://www.kawasaki-icc.jp/>（毎月・随時更新）

ホームページでは、各種イベントのお知らせのほか、初めてセンターを利用される方に向けた情報を掲載しています。アクセシビリティに配慮し、文字サイズや白黒反転の選択機能を備えるとともに、スクリーンリーダーによる読み上げを考慮した言葉の区切りにも留意しました。あわせて、スマートフォン専用サイトも整備しており、多様な閲覧環境に応じた円滑な情報提供に努めています。

（イ） イベントの開催

川崎市は映像や音楽文化の振興・普及を促進しています。視覚障害市民もこれらの文化に触れることができるように、例年、多数のイベントを開催しています。

今年度は、定例の春のコンサート、漫才公演、音声解説付きDVD映画体験上映会（毎月）、歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ：5回）、CDで聴くクラシック音楽講座（5回）、ヨガ教室（12回）、読書会（4回）に加え、小学館とコラボしたオーディオブックイベントなどを実施しました。

a. 音声解説付きDVD映画体験上映会（開催回数：12回）

年間12回の上映会を実施し、延べ416名が参加しました。「ローマの休日」から最新作まで幅広い作品を提供し、音声解説付きDVDの活用により、視覚障害があっても情景を

楽しめる環境を整備しました。その結果、毎回ほぼ定員に達する人気となり、社会参加の機会創出につながりました。

b. ヨガ教室（開催回数：12回）

ヨガは自身のペースで呼吸や体調に合わせて行えるため、視覚障害のある方にも取り組みやすい運動です。講師は「チャレンジド・ヨガ」川崎エリア担当者に継続依頼し、安全第一で実施しました。仰向けでの呼吸確認や座位での体ほぐしを基礎に、テーマ別のポーズを分かりやすく指導し、椅子や補助員による支援も行いました。開始前の声かけや交流促進にも配慮し、安心して参加できる和やかな環境づくりに努めました。

c. CDで聴くクラシック音楽講座（開催回数：5回）

クラシック音楽を身近に楽しんでもいただくための音楽講座を年5回開催しました。CDによる名演奏を丁寧な解説とともに紹介し、親しみにくい印象のあるクラシックの魅力を伝え、新たな発見につなげることを目的としました。シューマン、ブラームス、ハイドン、ベートーヴェンやボヘミアの国民楽派など各回テーマを設定し、名曲を厳選して紹介するとともに、関連するデイジー図書の案内も行いました。

d. 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」（開催回数：5回）

国立国会図書館所蔵の貴重なSPレコード等を紹介する「れきおんクラブ」を年5回開催いたしました。今年度は昭和100年企画として「戦争と平和」「『少女の友』愛唱歌集」「ラジオの時代」を実施したほか、ふるさと巡りシリーズでは「南東北編」や「近畿編」をテーマに取り上げました。専門家の丁寧な解説とともに多様な楽曲を堪能していただくとともに、関連するデイジー図書の紹介も行いました。音源を通じて歴史や文化への理解を深め、読書意欲の向上にも繋がる有意義な機会となりました。

e. 読書会

盲人図書館時代から続く歴史ある行事である「読書会」は、1つの作品を各自で読み、参加者同士で感想を話し合うイベントとして実施しています。近年は、読了してなくても参加できるよう配慮するとともに、本をより実感をもって味わっていただくための工夫を加えた形で開催し、多くの方にご好評をいただいています。今年度はセンター内での実施に加え、外部でも2回開催しました。

・第1回 小説の中の音を楽しむ会

開催日：6月14日（土）

作品：虹の岬の喫茶店（森沢明夫著）

場所：川崎市視覚障害者情報文化センター 多目的室

参加者数：25名

今年度第1回の読書会は『虹の岬の喫茶店』をテーマに開催しました。作中に登場するエルヴィス・プレスリーやABBAの音楽を実際に聴きながら、主人公の生き方や情景を味わいました。舞台にちなみコーヒーや紅茶も提供し、香りや味覚とともに読書を楽しむ機会としました。参加者からは音楽により心情理解が深まった、情景描写が印象的だったとの感想が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

・第2回 出張読書会「小説の中の音を楽しむ会」

開催日：9月18日（木）

作品：羊と鋼の森（宮下奈都著）

場所：川崎市北部身体障害者福祉会館

参加者数：9名

センター外で実施する出張読書会として『羊と鋼の森』をテーマに開催しました。テーブルをコの字に配置し、参加者同士が対話しやすい環境を整え、小説に登場するピアノ曲を聴きながら物語の世界を味わいました。猛暑の中での開催でしたが地域からの参加が多く、単独歩行で来場する方も見られました。ピアノの思い出や楽曲への感想が語られ、初参加者からも次回への期待が寄せられるなど、和やかな交流の場となりました。

・第3回 出張読書会「小説の中の音を楽しむ会」

開催日：11月26日（水）

作品：蜜蜂と遠雷（恩田陸著）

場所：川崎市立宮前図書館

参加者数：29名

第3回読書会（出張2回目）は『蜜蜂と遠雷』をテーマに、川崎市立宮前図書館で開催しました。朗読と実際のピアノ曲を組み合わせ、登場人物の心情や成長、小説表現と音楽の響きを対比して鑑賞しました。公共図書館との協働により視覚障害のある方に加え一般の方も参加し、視聴覚室で物語と音楽を共有する体験に新鮮さがあるとの声が寄せられました。読書の楽しみ方を広げ、読書バリアフリーへの理解促進につながりました。

・第4回 小説の中の音を楽しむ会

開催日：1月30日（金）

作品：歌え！多摩川高校合唱部

場所：川崎市視覚障害者情報文化センター

参加者数：19名

今年度第2回センター読書会は、川崎を舞台とした『歌え！多摩川高校合唱部』をテーマに開催しました。NHK 全国学校音楽コンクールの課題曲にまつわる実話を背景とした作品で、地元が描かれていることから多くの参加者が親近感を持って参加しました。作中の合唱曲を聴きながら、学生時代の思い出や地域とのつながりについて語り合い、多摩高校にゆかりのある参加者も交えた和やかな交流の場となりました。

f. 春のコンサート（クラシック・コンサート

～ピアノとヴァイオリンのデュオを聴く午後～

開催日：5月10日

参加者数：112名

「かわさき春のコンサート」をふれあいプラザかわさき2階ホールで開催し、112名が来場しました。利用者の要望により実現した本公演は満足度9割超と大盛況でした。岩田恵子氏（ヴァイオリン）と草冬香氏（ピアノ）が名曲を披露し、合間の分かりやすい解説により、視覚障害のある方も本格的な演奏を十分に楽しめる機会となりました。寄せられた声や要望を今後の企画に活かし、魅力ある運営を継続していきます。

g. オーディオブック・サロン

開催日：5月31日

参加者数：149名

読書バリアフリー法の施行を受け、小学館と共催で体験型イベントを開催し、当事者や関係者ら149名が来場しました。出版社と視覚障害者情報提供施設の連携として注目を集め、出版・図書館・支援団体など多様な参加を得ました。デージー図書とオーディオブックの聴き比べにより、新たな読書手段の提示と音訳への理解促進を図り、センターと新たな関係者とのつながり構築にもつながりました。アンケートでも高い評価が得られ、今後の普及推進の基盤となりました。



h. ファンケルメイクセミナーの開催

開催日：9月11日

場所：麻生市民交流館やまゆり

参加者数：8名

ファンケル従業員を講師に迎え、メイクセミナーを開催しました。手や指の感覚を活用したスキンケアからメイクまでを学び、参加者が実践しました。同行援護ヘルパーの支援により色選びや仕上がり確認も行われ、理解が深まりました。参加者からは「気持ちが明るくなった」「続けられそう」との声が寄せられ、終始和やかな雰囲気の中で有意義な時間となりました。

i. 音声ガイド制作ワークショップ

開催日：12月27日

参加者数：8名

音声解説付きDVD映画体験上映会で、こども文化センターとのコラボ企画を実施しました。地域の子どもたちが映像説明に挑戦するワークショップを開催し、視覚障害への理解促進を図りました。「トイ・ストーリー」の多世代鑑賞会では、感想発表を通じて世代を

超えた温かな交流が実現し、地域における有意義な相互理解と当事者理解を促す取組となりました。

j. ほっこりサロンアイ eye

開催日：2月18日

参加者数：4名

訓練スタッフの初企画として、交流会を開催いたしました。前半は音楽に合わせた椅子エクササイズを行い、後半は「食事」をテーマに、得意料理や調理の工夫について和やかに情報交換を楽しみました。予約不要の自由参加形式で実施いたしましたが、こうした交流の場は今後も継続していく必要があると認識しています。

k. 音戦宅球大会 2026 in Kawasaki

開催日：2月21日

参加者数：10名

アプリ開発者の「タニーズ」および ePARA の音戦宅球達人2名を迎えて「音戦宅球大会 2026 in Kawasaki」を開催しました。当日は、午前中の練習を経て午後はトーナメント形式の試合を行い、上位3名を表彰しました。試合では年齢や聴力への不安を覆す好プレーが相次ぎ、参加者の真剣な表情や秘めた力が発揮される見応えのある展開となりました。タニーズの進行と達人のサポートにより、会場は終始大きな盛り上がりを見せました。

*音戦宅球：iPhoneの球の音を頼りに打ち返す新感覚のサウンドスポーツゲーム。無料アプリで、iPhoneとステレオイヤホンがあれば一人でも遊べる。

l. 漫才公演「宮田陽・昇 独演会」

開催日：2月14日

参加者数：81名

利用者アンケートで寄せられた演芸への要望に応え、漫才の独演会を開催しました。当日は計81名が来場し、掛け合いの妙が好評で、満足度は9割以上と極めて高く、「大笑いしてリフレッシュできた」等の感想も多く寄せられています。丁寧な誘導を含めた運営体制も評価されており、今後も外出のきっかけとなる場を継続して提供していきます。

m. センターまつり ※電気設備故障による全館停電のため、中止

センター最大のイベント「センターまつり」が建物停電により中止となった際、直ちに関係機関への広報を行いました。ホームページやメールマガジンでの即時告知に加え、視覚障害者福祉協会、ボランティア団体、同行援護事業所など関係機関へ迅速に情報共有

し、組織的な周知を実施しました。また、団体未加入の利用者には個別電話連絡を徹底し、多層的な情報提供により当日の来館を最小限に抑え、混乱を防止しました。本対応は地域・関係機関との連携強化の具体的成果であり、次年度の防災体制強化につなげていきます。

(ウ) その他

a. センスプレーヤー体験会

開催日：9月25日、10月16日、11月13日

参加者数：9名

リンクポケットによるサピエ接続ができなくなることに伴い、小型のデジ再生機であるセンスプレーヤーの体験会を実施しました。最新機器の進化を直接体験できる機会として参加者から高い満足度を得ており、説明の分かりやすさや内容・時間についても適度であるとの評価が多く寄せられました。OCR機能などの高度な機能に関心を持つ方や新機種に触れること自体を楽しむ方が多く見られました。

⑥ 防災・減災

(ア) 避難訓練の実施

ふれあいプラザかわさき全体で実施される消防訓練に参加し、発災時の役割分担を確認しながら避難行動を行いました。また、音声解説付きDVD映画体験上映会終了後には利用者を対象とした防災訓練を2回実施しました。訓練では、センターの備蓄品の説明、避難経路の確認、災害用伝言ダイヤルの使用方法の説明を行うとともに、簡易トイレや寝袋に実際に触れていただき、避難経路である外階段を歩く体験を取り入れるなど、視覚障害のある利用者が具体的にイメージしやすい内容としました。さらに、河川氾濫を想定した水害時には垂直避難となることを踏まえ、センター内に留まる対応について職員へ周知し、水害を想定した訓練としました。

(イ) 緊急連絡体制の整備

職員およびパート職員の連絡先（携帯電話・メールアドレス）を管理し、定期的に一斉連絡を実施することで、緊急時に迅速な情報伝達が可能な体制を維持しております。災害時に加え、天候急変に伴う警報発令時にも速やかな連絡ができる体制としています。

(ウ) 感染症予防対策

受付カウンターおよび各居室に手指消毒用アルコールを設置し、利用者やボランティアが自由に使用できる環境を整備しました。また、コンサート等のイベントにおいては、空気清浄機や送風機を活用し、換気および空気循環に配慮した運営を行いました。

(エ) AED 機器の管理

川崎市より支給された AED 機器を事務室入口付近に設置し、バッテリーの状態を毎日確認・記録することで、常時使用可能な状態を維持しています。

(オ) 停電発生時の対応

本年度はセンター建物全体の停電が発生しましたが、速やかな情報発信（メール・ホームページ）や関係団体・福祉事業所への連絡、個別の電話対応を行い、利用者への影響を最小限に抑えました。また、停電期間中は本部への拠点移転やポータブル電源の活用により業務を継続し、「業務を止めない」「情報提供を継続する」「個別対応を維持する」という方針のもと対応しました。これらの取組により大きな混乱なく運営を継続することができ、本件の経験を踏まえ、今後の防災対策および事業継続体制の強化に活かしていきます。

(2) 事業の成果

① ICT 活用と多角的な連携による読書環境の拡充

読書バリアフリー法の理念に基づき、従来の枠組みを超えた情報保障の提供に注力しました。サピエ図書館の接続環境の変化に際し、センスプレーヤー体験会を実施し、継続的なアクセスを支援しました。デイジー図書館のダウンロード提供数は 4,269 タイトル（前年度比 112%）と着実に伸長しており、利用ニーズがデジタル配信へ移行するという構造的な変化に適応しました。また、小学館と共催した「オーディオブック・サロン」（149 名参加）は、出版社と情報提供施設が直接連携する全国的にも稀なイベントとして、多方面から高い注目を集めました。さらに、公共図書館向け事業説明会や読書会の実施を通じ、地域全体で読書を支える具体的な一歩を踏み出しました。

② 利用者ニーズを反映した文化的イベントの提供

利用者アンケートの結果を即座に事業計画へ反映させる PDCA サイクルを強化しました。世界的演奏家による「春のコンサート」や、利用者の要望を具現化した「漫才独演会」はいずれも満足度 90% 以上の大盛況を収め、外出と交流の機会を創出しました。また、音声解説付き DVD 映画上映会での子ども向けワークショップ実施など、多世代交流を通じて視覚障害への理解啓発と社会参加を同時に促進しました。

③ 専門性の高い自立支援と医療・福祉の連携体制

スマートフォン操作に関する多様なニーズに対し、視覚障害当事者である職員が専門的・実践的な支援を展開し、迅速な課題解決を図りました。医療連携では、市内眼科医との定例会「ビジョンサポート川崎」を継続開催し、医療から福祉サービスへ繋げる体制を強化しました。

④ 持続可能なボランティア基盤の構築と技術継承

将来にわたる製作体制の維持に向け、20代から50代の現役世代を含む計20名の新規ボランティアを確保しました。また、長年講師を務めた担当者の退任を機にカリキュラムの全面的な見直しを行い、特定の個人に依存しない持続可能な養成システムを再構築しました。現場への生成AI（ChatGPT等）の導入による効率化も進めており、質の高い資料を安定的に提供し続ける基盤を強化しています。

⑤ 不測の事態における利用者安全とサービス提供の両立

12月に発生した全館停電事故に際しては、ホームページ、メールマガジン、個別電話等を組み合わせた重層的な緊急周知を即座に実施しました。対応にあたっては、職員の約3分の2が本部である日本点字図書館に拠点を移して業務を継続し、残る職員もセンター内でポータブル電源を活用することで、「情報提供を止めない」「個別対応を維持する」という方針を徹底いたしました。こうした迅速な組織対応の結果、中止になったセンターまつり当日の混乱を未然に防ぎ、不測の事態においても利用者安全とサービス提供を両立させることができました。